

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有
〒207-0015
東京都東大和市中央 1-539-15
http://www.yumuyu.com/
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

東北再興

Re-Create, TOHOKU!

2024年(令和6年)4月16日 火曜日

無料

第143号

毎月発行

発行 2024年(令和6年)4月16日 火曜日

【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、70歳の新人歴史映像作家兼プロデューサー。3作目の「古代製鉄の埋もれた歴史を発掘した映像」の【奪われた古代鉄王国】の崎上映会は延期。乗けて縄文を日の大い新4作目制作に代れた東北文化研究。埋もれた東北を本を掘すこととを標榜。



岩手野球王国に続き【青森相撲王国】到来 青森出身の『尊富士』の新入幕優勝は110年ぶりの快挙ではなく、史上初の快挙である！

先月の大相撲春場所は、相撲界を挙げての大変な話題で盛り上がった。幕内最下位(幕尻)の東前頭十七枚目の「尊富士(たけふじ)」が、いまから百年前の大正三年夏場所の両国(最高位関脇)以来の新入

幕優勝を飾ったことになり、かつての「尊富士」は、あえてこれに異論をぶつきたいと思う。



『尊富士』優勝の瞬間・・・毎日新聞より

その詳細な理由は次の通りである。百十年前に新入幕優勝を飾った主人公である「両国」は、本名を「伊藤勇治郎」といい、秋田県仙北郡出身である。今回の話題の主の「尊富士」も、青森県北津軽郡金木

町(現在は五所川原市)出身で、同じ東北出身である。「両国」は、細身ながら足腰、腕力は強く、稽古場では横綱も勝てなかったほどの力士だったようだ。



優勝した『尊富士』と母・・・スポ日より

一九一四年当時の大相撲は年二場所の開催で、十日間制。優勝を争うというよりも、東西に分かれた団体戦のようなもの。今の十五日制で、個人戦の色彩が強い大相撲とはまったくシステムがちがう。したがって、百十年前のかつての優勝とはまったく異なるものとも考えるのは当然だ。

だからこそ、「史上初新入幕優勝」なのだ。現在の多くの力士たちも、いまの十五日間をフルに闘う苦勞は並大抵ではないと言っているし、ましてや優

「尊富士」の十一日目までの連勝記録は、昭和の大横綱・大鵬の新人幕初日から連勝記録に並んだのである。これもすごいことだ。筆者の年代にはなつかしい「巨人・大鵬・卵焼き」という流行語が登場するほど、大鵬は強いものの象徴だった。その大鵬に並んだのだ。その後敗れはしたが、十三日目までは大事件も発生せずに推移したが、何と十四日目の取組で大けが。

立ち上がれず、救急車で病院へ直行。残念だが、千

優勝目前の大けがと ドラマの連続

秋楽の出場はもうだめだとも思った。優勝対抗馬もまだマゲの結えない「大の里」だった。千秋楽に「尊富士」が休場となれば、可能性はふたつ。もし「大の里」が勝つと、本



「110年前に新入幕で幕尻優勝した『両国』・・・毎日新聞より



親方 元横綱旭富士
伊勢ヶ浜親方・・・日刊スポーツ



現役力士 阿武咲
・・・日本相撲協会

来は優勝決定戦となることろだが、優勝決定戦での不戦敗で優勝を逃す。「大の里」が負ければ、「尊富士」の優勝だが、優勝セレモニーには出られないか、車椅子で土俵際まで来ての

表彰となるのではないかと
気をもんだ。前代未聞の事
態が発生したのだ。

しかし、またまたドラマ
があった。

「尊富士」が千秋楽に出場
して相撲をとるというのだ
前日は、親方には出られな
いと伝えたが、その後、兄弟
子の横綱照ノ富士に、後悔
することのないようにと言
われて気が変わり、ケガし
た足も急に動くようになって
たというのだ。

そして強行出場して、勝
利して、「優勝」を掴んだ。
いったい、ここまでで、何
度のドラマがあったのだら
うか？

手負いとなった千秋楽の
土俵で懸命に闘った姿には
称賛しかない。それでも、
二場所前は幕下力士。出世
の早さに髪伸びが追いつ
かず、関取の象徴といわれ
る大銀杏も結えないちょん
まげ姿の表彰だった。

青森県は相撲王国

そういえば、「尊富士」の
師匠の元横綱旭富士の伊勢
ヶ浜親方も青森県出身で、
現役の青森出身関取には、
阿武咲、錦富士、宝富士が
いて、幕下以下にもたくさん
の青森出身力士が在籍する。
過去には、鏡里、初代若乃
花、隆の里、二代目若乃花、
栃ノ海の横綱も輩出した。
OBには、安美錦、貴ノ浪、
高見盛、舞の海、若の里など
がいる。

江戸時代から現在までの
十両以上の青森県出身関取

数は百三十六人で全国一位
明治十六(一八八三)年五月
場所で一ノ矢(田舎館村)が
入幕して以来、今年七月場
所まで百三十七年間、県出
身の幕内力士が不在だった
場所は一度もない。横綱の
ほか立行司も輩出している
どう相撲王国である。

最近低調気味の青森相撲熱

このように、六人の横綱
と数々の名力士を輩出し、
十両以上の関取数全国一位
を誇るなど「相撲王国」と呼
ばれた青森県だが、今年中
に現役力士数が史上初の一
桁台になる可能性があり、
その名が揺らいでいる。

専門家は少子化や競技の
選択肢の増加、生活様式の
多様化などに加え、アマチ
ユア相撲界の危機意識の希
薄さも指摘する。

こうした青森県相撲界に
「尊富士」は、実は百十年ぶ
りの快挙ではなく、「史上初
の新人幕優勝」という快挙
だったのだと、あらためて
宣言して注目を浴びるとい
うのはどうだろうか？

それを受けて、地元青森
での相撲熱はより一層上昇
することはまちがいない。
そして、地元の相撲教室
に入ろうという子供たちも
増えるかもしれない。
そうならば、かつての「相
撲王国・青森」を取り戻せ
るかもしれない。



初代若乃花・・時事通信



隆の里・・スポーツ報知



舞の海・・大相撲J.P



高見盛・・AMEBA ブログ

大谷選手の元通訳の賭博問題の「早期全容解明」望む！ 最近の「打撃大活躍」を示したことで、彼の精神的強さが伝わる！ 大谷選手の人間としての「魅力」がさらにもうひとつ加わった！！

天国から地獄へ

昨シーズンから今年の開幕
幕までの大谷選手はすべて
が順調そのもので非の打ち
どころもないものだった。
昨シーズンの成績といえ
ば、二度目のMVP、MLB初
の日本人ホームラン王、そ
してスポーツ界始まって以
来の巨額でのドジャースへ
の移籍が話題を呼んだ。

今年に入ってから、ま
ず、突然の結婚発表で、国内
だけでなく世界を驚かせた。
今シーズンの開幕戦は韓国
だったが、そこでもヒット
を打って、心配された移籍
後の活躍も無事スタートを
切った・・・と思われた。

しかし、今では周知となっ
ているが、翌日朝にはどん
でもないニュースが飛び込
んできたのだ。

大谷選手専属の通訳の水
原氏がドジャースを突然解
雇され、その理由がなんと
違法賭博。

さらに、それだけにとど
まらず、その莫大な賭博の
負け金を大谷選手の銀行口
座から盗んだという。

最初は六億八千万と
の噂だったが、現在では
二十四億円にも上るとい
うではないか。

これにより大谷選手は、
巨額の窃盗に遭っただけ
なく、「相棒兼通訳」も失っ
てしまった。

それらによる精神的な打
撃は計り知れない。
さらに「共犯」や「主
犯」まで疑われる

さらに「逆境」は続き、一
部マスメディアにより、被
害者であるはずの大谷選手
が、この違法賭博の「共犯」
ではないかというまさかの
説や、あるうことか「主犯
説」まで書かれる始末。

この騒動で、大谷選手に
いったい「何重苦」が襲って
きたのだろうか？

最高の絶頂期からの最悪
の状況への大転落である。
当新聞はこれまで大谷選
手を心から応援してき
た。東北が産んだ英雄であ
り、古代エミシの長である
アテルイにもなぞらえてき
た。そして大谷選手の人柄
にも全幅の信頼を抱いてい
る。

それは今回の事件でも少
しも揺るがない。
したがって、早く「全容」
が明らかになり、あらぬ疑

「事件」後、なかなか最初
のホームランが出ず、今回
の騒動が影響しているの
ではないかと心配されたが、
最初の一本が出た後は、打
撃好調で、昨年以来の「記
録」ラッシュとなった。

筆者は、大谷選手に、野球
選手としての強さだけでなく、
一人の人間としての強
さも感じさせられた。
同時に新たな大谷選手の
魅力が追加されたのを感じ
る。今後どこまで「成長」す
るかますます楽しみである。



大谷選手 自身の関与否定 水原氏の賭博問題に関する記者会見 (3/26) NHK より



大谷選手 今シーズン第一号ホームラン(4/4)
日テレNEWS より

新シリーズ【東北を再発見する旅】…⑥ 遠野の金取遺跡発掘物 有名な旧石器捏造事件の影におびえ訪れる人もほとんどいない

「旧石器捏造事件」

考古学ファンなら「ご存じの方も多いだろうと思うが、いまから二十年ほど前に、旧石器捏造事件というのがあった。

その旧石器捏造事件とは、日本の前期・中期旧石器時代の遺物(石器や遺跡とされていたもの)の一部が、それらの発掘調査に携わっていたアマチュア考古学研究者の藤村新一によって捏造されたという事件である。その手口は、事前に埋設しておいた石器を自ら掘り出すことで、初めて発見したように見せた「自作自演の捏造」であった。

彼は捏造発覚までの約二十五年間、周囲の研究者が期待するような古い年代の地層から次々に掘り出して見せ、後に「神の手」と呼ばれるまでになった。やがて、そのことは、平成十二年(西暦、千年)十一月に発覚する。

その後、多くの遺跡が旧石器時代の遺跡としての認定・登録を取り消された。まさに、考古学会を震撼させた事件であった。

この事件をいまも引きずる旧石器時代研究

筆者はアマチュアの考古学研究者でもあるので、興味あるセミナーや研究会にも参加することが多い。

そのなかでも特に印象に残った研究会があった。

二〇一七年十二月に、遠野で開催された「第三十一回東北日本の旧石器文化を語る会岩手大会」がそれであった。

その研究発表会での数人の発表者のごとく、「枕言葉」のように、その旧石器捏造事件の話を最初にするのである。

しかも、その事件にいまもおびえているように感じられた。

おそらく、日本の旧石器研究は、この事件のために、大きく後退し、おびえ、斬新な研究発表もほとんど控えられてきたのだと思う。まことに残念な事件であり、許せない事件であった。

遠野まちなか・ドキ・土器館

筆者は何度か岩手県遠野市の『遠野まちなか・ドキ・土器館』を訪ねている。

そこにはたくさんの縄文土器などが展示されているが、筆者の最大の興味は、遠野市宮守町の「金取遺跡」からの発掘物である。

その発掘物は旧石器時代の石器である。

最初に「遭遇」したときには非常に驚いた。

なぜなら、一番古い石器の年代が「九万年前」だからであった。

「九万年前」の旧石器研究は誰が作った?

「九万年前」といえば、日本列島には現生人類(つまりいまの人類)はいなかつ

たとえられてきた。では、誰がこの石器を作ったのか? 「九万年前」という時代は、現生人類が本格的な「出アフリカ」をする六万年より三万年も古い時代である。

では、その石器は北京原人やその亜種が作ったのだろうか? 疑問は次々に出現した。収拾がつかなくなってきた。それほどの衝撃を与える

石器だった。

しかし、金取遺跡は注目されない

しかし、それでも「金取遺跡」からの発掘物は注目を浴びることはない。

この日本に「九万年前」の石器、人類が作った石器などあるはずがないとはじめから決めつけられているせいであろう。でも、石器は実際に「存

在するのだ。この矛盾は、さらなる発掘と研究を積極的に推進することでは解決しない。とはいえ、そうした研究は、日本ではおびえながらの域を出ないのだろう。

それにしても、あの捏造事件が何ともうらめしい。いざ、この事件の影響が、よその国での新たな旧石器時代の発見で消滅することを願うのみである。



約3.5～7万年前の石器・・・筆者撮影



約7～9万年前の石器・・・筆者撮影



約3.5～7万年前の石器拡大画像・・・筆者撮影



約3.5～7万年前の石核と石斧・・・筆者撮影



遠野まちなか・ドキ・土器館外観・・・筆者撮影



金取遺跡の説明パネル・・・筆者撮影

新シリーズ【東北を再発見する旅】…⑦ 宮城県涌谷の長根貝塚 三内丸山より古いが発掘されることもない田舎町の縄文遺跡

宮城県涌谷にある長根貝塚を訪ねた

筆者は、アマチュアの縄文研究者でもある。ただし、仕事としてやっている訳ではない。

主として文献をベースにした研究だが、アマチュアとしては、かなりの数の縄文遺跡も訪問している。

それらの遺跡は、青森・岩手・秋田・宮城などの東北中心ではあるが、新潟や山梨や長野、群馬、千葉にも何度か行ったし、福井にも北海道にも島根にも足を延ばした。ただ、九州や四国の縄文遺跡は訪問したことはない。

しかし、灯台下暗しで、生まれ故郷の宮城県涌谷町にある縄文遺跡は知らなかった。訪ねてみた。もう十年以上も前のことである。

生まれ故郷の縄文貝塚で驚いたこと

行ってみて驚いた。かなり古い貝塚であることが分かった。

たまたま知り合いの考古学の研究員に聞いたところ、通説では六千年前のものとされているが、実はもっと古く、何と七千年前から使われていた可能性のある貝塚だということ。

東北の縄文遺跡のなかでも、七千年前の遺跡といえば、最古級の遺跡である。

東北で有名な縄文遺跡といえば、青森県三内丸山遺跡だが、約五千九百年前か

らの遺跡である。長根貝塚の方がより古い。

しかし、専門家の間でも、この長根貝塚はあまり有名ではないし、ましてや一般人にはまったく知られていない。

そこでいろいろ調べてみたら、そこは、海水、汽水、淡水の時代を通してずっと使用されていた貝塚という。

その点もかなりめずらしいようだ。

なのに、なぜ発掘されないのか疑問に思っ、さらに別の専門家に聞いてみた。**国指定史跡は発掘できない？**

そうしたら、この長根貝塚は、いまから55年前の昭和四十三年に「試掘」されたあと、昭和四十五年に「国指定史跡」に認定されたことが分かった。

「試掘」なので、ほんの一部しか発掘されず、すぐに埋め戻され、いまは記念碑だけがぼつりと立っているという状況である。

そこで問題となるのが、「国指定史跡」となってしまうことである。

「国指定史跡」になると、余程のことがないかぎり、あらためての「本格的な発掘」はできない決まりになっているというのだ。

余程のことは、まず住民が「本格的な発掘」に非常に積極的であること、予算の裏付けが必要であること、「本格的な発掘」を実施したら、新たな発見が出てくる

可能性が高いこと、国に積極的に働きかける必要があること、などである。

現実問題として、この「国指定史跡」となってしまう長根貝塚の「本格的な発掘」はかなりむずかしく、ハードルは相当高そう。

「本格的な発掘」による長根貝塚の「可能性」

アマチュア研究者としての、途方もない見解かもしれないが、もしも、この長根貝塚の「本格的な発掘」がな

されたとしたら、さまざまなことが分かるのではないかと思う。

まずは、海水、汽水、淡水の時代の三つにまたがって使用されていたので、「縄文海進」の時代、そこから「ミ

のプロセスが、新たな発掘物などで、理論上ではなく、リアルな遺物等でトレースできるといえることがある。

次に、この長根貝塚は、単独の遺跡ではなく、隣接する町の遺跡と一体となった遺跡ではないかということ。

そして、そこでは青森県から出土しているあの有名な「遮光器土偶」と同じ土偶が発掘されている。

とすると、青森県と宮城県を含む、広範囲な「文化交流圏」が当時存在していたことが証明される可能性も

出てくる。何ともしない「放置された遺跡」なのだろうと思うし、残念至極である。



『国指定史跡』看板



発掘当時の写真



当時の暮らし想像図



記念碑だけが立っている



周辺の風景



発掘された一部土器

東北のクラフトビールを 東北の一大産業に

桜前線が東北に到達

例年東北で一番早く桜が咲く、福島県の浜通り南部のいわき市で三月三〇日、桜の開花が発表され、今年も東北に桜前線が到達した。東北三大桜名所の一つとして知られる弘前公園のある青森県弘前市の開花予想は四月一四日、満開の予想が四月一九日で、暖冬を反映して今年もゴールデンウィーク前に見頃を迎えることになりそうである。恒例の「弘前さくらまつり」もこれに合わせて前倒しで四月一二日に始まった。今年も五年ぶりに制限のない形で開催となった。

伝統の桜まつりにクラフトビールが初出店

新型コロナウイルス感染症に伴う制限がなくなつて従来通りの開催となった弘前さくらまつりで私の目を引いたのは、地元クラフトビール醸造所「Bees Brewing」が初めて出店を出すということであった。一九一八年に「観桜会」として始まった長い歴史を持つこの弘前さくらまつりには毎年実に二〇〇を超える出店が軒を連ねるが、そこにクラフトビールが加わつたのは、今年が初めてである。今年はこの一〇〇年以上の歴史を誇る伝統のイベントで、八年前にこの地にできたクラフトビールが楽しめる。

弘前さくらまつりに限らず、東北各地の伝統的な祭りの会場では、少しずつ地元のクラフトビールが飲めるようになってきている。私のようなビール好きにとってはよく知られているビールでも、意外に地元の人には知られていなかったりするビールもあつたりする。たくさんの方が集まる祭りは、そうした人にもそのビールの存在を知ってもらう新たな機会となる。今年もこの桜祭りを皮切りに、夏祭りや秋祭りなどでも地元のクラフトビールが飲める機会が増えるに違いない。

拡大中の東北のクラフトビール

新型コロナウイルス感染症への対応の中では、飲食店での飲酒が感染拡大のリスクとなり得るとされた。それによつて飲食店や酒類製造業界は大きな逆風にさらされることとなったが、そうした中でも東北のクラフトビール醸造所は着実に増えてきた。

私が把握している限り、青森県には六つ、岩手県には一四、宮城県には二一、秋田県と山形県にはそれぞれ七つ、福島県には九つのクラフトビール醸造所がある。東北六県で合わせ実にて五五ものクラフトビール醸造所があるというのほちよつとした驚きではないだろうか。しかも、これで終わりというわけではなく、今年以降も東北各地で少なくとも九つ立ち上がる話がある。東北のクラフトビールは引き続き拡大の最中にあるわけである。

飲み手を増やす必要性

ただ、東北のクラフトビールが増えるに伴つて必要なのは、クラフトビールを楽しむ人も増えることである。私のような、クラフトビールが常に日常にそばにある存在だという人は、全体から見るとまだまだ少数派だと思われる。クラフトビールを造るところが増えても、クラフトビールを飲む人が増えなければ、限られたパイの中のシェアの奪い合いということになってしまう。仮に東北のクラフトビールが倍に増えても、私が今の倍飲むのは不可能である。

周りのクラフトビール好きと話していると、あほかも世の中にクラフトビールが広く浸透しているように錯覚してしまふようになるが、現実はそのまで行つてはいない。キリンの調査では、日本におけるビール類(発泡酒や「第三のビール」を含む)のうちのクラフトビールのシェアは、一昨年の段階で約一・五パーセントで、それから二年経つた今でもおそらく三パーセントは超えていないものと思われる。大多数の人に届いては、クラフトビールというのはまだまだすぐそばにある存在ではないのである。

ビールの多様な世界

ビールの魅力の一つはその多様性にある、と私は思っている。日本の大手のビールを見ると、そのほとんどが「ピルスナー」と呼ばれるスタイルのビール、すなわち透過通つて金色に輝く、飲むとホップの苦みが感じられ、喉越しがいいという味わいのビールである。

しかし、実はビールのスタイルはこのピルスナーを含めてもつとたくさん種類がある。「ピラスターイルガイドライン」の二〇二二年四月版には、実に一八種類のビールのスタイルが定義されている。大手のビールが好んで飲んでる人も、ビールが苦手という人も、その大部分は「ピルスナー」以外のビールの存在を意識していないのである。

大手のピルスナーの出来はさすがで、多くの人が好んで飲んでるのも頷けるクオリティの高さな間は間違いなく、ただ、それ以外にもビールはあるという点にも目を向けると、ビールをより楽しめると思う。

「発泡酒や「第三のビール」(含む)のうちのクラフトビールは、逆にもっと苦みがあるもの、逆にもっとフルーティなもの、もっとライトな味わいのもの、逆に濃厚さが感じられるもの、酸味の強いものなど、実に多様な味わいのものが存在する。大手のビールが好きな人も、そうしたビールが苦手という人も、その多様な世界に触れるきっかけがあれば、その人にとつてもビールの世界が広がります。

それによつてクラフトビールはもっと身近なものになつていくと思うのである。

最近では、大手の方も、今まではほとんどピルスナースタイルのビールしか造つてこなかったという反省から、またそれ以外のスタイルで造られるクラフトビールが伸びてきていることから、クラフトビールに「参入」してきている。これらは、通常の大手ビールよりもほんのちよつと高いだけなので、気軽に手を伸ばすにはうつつである。

ビール好きの中には、「大手が造るビールがクラフトビールと言えぬのか」という意見もあるが、私は別に大手でも個性的なビールを造るのであればそれはクラフトビールと名乗っても構わないと思つている。大手の中でも先ほど挙げたキリンは特にクラフトビールにコミットして、「スプリングバレー」名義でクラフトビールを数種類出しており、それらはスーパーやコンビニに置いてあることも多く、手に入りやすい。もちろん、大手が手掛けていて、味も個性的でありながら、好き嫌いが分かれにくいところを狙っている。手に取るきっかけとしてはうつつである。

キリンは、自らクラフトビールを手掛けるだけでなく、既存のクラフトビール醸造所とコラボすることにも熱心である。そこには一緒にクラフトビールを盛り上げていきたいという意思が感じられる。

以前も紹介したが、東北のクラフトビール醸造所が集まつて、震災の時に受けた恩を、皆で美味しいビールを造つてお返ししたいという趣旨で立ち上がった「東北魂ビールプロジェクト」にもキリンの仙台工場とスプリングバレーが参加と協力を申し出て一緒にやつてきている。キリンの品質管理の方法やデータ分析の好みや伝えればその好みに合うものをチョイスしてくれるので、遠慮なく伝えられるとよい。そうして会話することもイベントの楽しさであり、造り手にとっては自ら造つたビールの反応が直接聞ける貴重な機会ともなつてきているのである。

東北各県で大小さまざまなクラフトビールイベントが開催されているので、その中で気が向いたものにはぜひ足を運んでみてほしいと思う。とりわけ、今年八月一八日から二〇日には、クラフトビール醸造所は、クラフトビール醸造所同士が、競争ではなく「共創」していくことが重要である。狭いパイの奪い合いをするのではなく、一緒にパイを広げていくことこそが必要なのである。

もう一つは、クラフトビールのイベントに足を運んでみることである。クラフトビールのいいところは、造り手の顔が見えることである。大手のビールを造っている人の顔はなかなか見えないが、小規模な醸造所が多いクラフトビールだと造り手の顔が見え、造り手と飲み手の距離も近い。

クラフトビールイベントのいいところは、そうしたクラフトビールの造り手が自らビールを注いでくれたりすることが多いことである。どのビールがどんな味なのか分からなければ、自分の好みを伝えればその好みに合うものをチョイスしてくれるので、遠慮なく伝えられるとよい。そうして会話することもイベントの楽しさであり、造り手にとっては自ら造つたビールの反応が直接聞ける貴重な機会ともなつてきているのである。

東北各県で大小さまざまなクラフトビールイベントが開催されているので、その中で気が向いたものにはぜひ足を運んでみてほしいと思う。とりわけ、今年八月一八日から二〇日には、クラフトビール醸造所は、クラフトビール醸造所同士が、競争ではなく「共創」していくことが重要である。狭いパイの奪い合いをするのではなく、一緒にパイを広げていくことこそが必要なのである。

岩手県一関市で開催される「全国地ビールフェスティバルin一関」には東北を始め全国から一〇〇種類以上のクラフトビールが集まる一大イベントである。同じく八月一九、二〇日に開催される「遠野ホップ収穫祭」は全国最大のホップ産地である岩手県遠野市のホップの収穫を祝うお祭りで、地元のクラフトビールが軒を連ねる。いずれも地元のフードも楽しめてお勧めのイベントである。

とても全部は紹介しきれないが、私のブログ「東北ブログ」の中の「東北各地のビールイベント二〇二四年版」や、facebookグループ「東北のビールの会」なども参考にしてみてください。たら幸いである。

東北を代表する産業へ

以前も書いたが、東北は先に挙げた岩手県遠野市を始め、各県でビールに欠かれない原料のホップが栽培され、そのシェアは全国の九割以上を占める圧倒的な産地である。東北のクラフトビールもこの東北のホップを用いて造るものが多い。こうした東北の地に根差した、また東北の特色を表す特産品へと育てていきたいものである。そのためには、私は今日も東北のクラフトビールを飲みたいと思う(笑)。

執筆者紹介
大友浩平
(おおもともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
http://blog.livedoor.jp/anagnasi/



Facebook
https://www.facebook.com/kohchi.ohtomo

岩手県一関市で開催される「全国地ビールフェスティバルin一関」には東北を始め全国から一〇〇種類以上のクラフトビールが集まる一大イベントである。同じく八月一九、二〇日に開催される「遠野ホップ収穫祭」は全国最大のホップ産地である岩手県遠野市のホップの収穫を祝うお祭りで、地元のクラフトビールが軒を連ねる。いずれも地元のフードも楽しめてお勧めのイベントである。

とても全部は紹介しきれないが、私のブログ「東北ブログ」の中の「東北各地のビールイベント二〇二四年版」や、facebookグループ「東北のビールの会」なども参考にしてみてください。たら幸いである。

以前も書いたが、東北は先に挙げた岩手県遠野市を始め、各県でビールに欠かれない原料のホップが栽培され、そのシェアは全国の九割以上を占める圧倒的な産地である。東北のクラフトビールもこの東北のホップを用いて造るものが多い。こうした東北の地に根差した、また東北の特色を表す特産品へと育てていきたいものである。そのためには、私は今日も東北のクラフトビールを飲みたいと思う(笑)。

岩手県一関市で開催される「全国地ビールフェスティバルin一関」には東北を始め全国から一〇〇種類以上のクラフトビールが集まる一大イベントである。同じく八月一九、二〇日に開催される「遠野ホップ収穫祭」は全国最大のホップ産地である岩手県遠野市のホップの収穫を祝うお祭りで、地元のクラフトビールが軒を連ねる。いずれも地元のフードも楽しめてお勧めのイベントである。

とても全部は紹介しきれないが、私のブログ「東北ブログ」の中の「東北各地のビールイベント二〇二四年版」や、facebookグループ「東北のビールの会」なども参考にしてみてください。たら幸いである。

以前も書いたが、東北は先に挙げた岩手県遠野市を始め、各県でビールに欠かれない原料のホップが栽培され、そのシェアは全国の九割以上を占める圧倒的な産地である。東北のクラフトビールもこの東北のホップを用いて造るものが多い。こうした東北の地に根差した、また東北の特色を表す特産品へと育てていきたいものである。そのためには、私は今日も東北のクラフトビールを飲みたいと思う(笑)。

岩手県一関市で開催される「全国地ビールフェスティバルin一関」には東北を始め全国から一〇〇種類以上のクラフトビールが集まる一大イベントである。同じく八月一九、二〇日に開催される「遠野ホップ収穫祭」は全国最大のホップ産地である岩手県遠野市のホップの収穫を祝うお祭りで、地元のクラフトビールが軒を連ねる。いずれも地元のフードも楽しめてお勧めのイベントである。

独立を忘れた東北人が これからの革命を思いつ事

ラジオの文化放送、平日の毎朝十分間だけの番組、(実は普通のラジオだと東北では聴けない・私はパソコンで聴いている)『武田鉄矢今朝の三枚おろし』で、好奇心の趣くままに弁舌いつも絶好調な俳優・武田鉄矢氏が、故郷である福岡県への想いが熱く重ねて強まっている事や、福岡市の近年の発展ぶりに「こんなに凄い街になるなんて想像もしなかった」とその驚嘆ぶりを隠さず熱く語る印象的な週があった。



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かつて立ち読みを始め東北好きである。

者周辺各地から集めて賑わっているとして、また東京などの若者に比して「鮮度」が違うとまで表現し、氏の知らない全く別の新しい「風」がこの街に立ち起こっていると感じる。そう興奮気味に語るのである。

藤波匠著『人口減が地方を強くする』(日本経済新聞出版・二〇一六年)を引き合いに出しながら、福岡とともに若者を多く引き寄せる都市として仙台そして金沢、甲府などを挙げ「地方が減びつつある。しかし本当だろうか?」と問題提起していくのであった。

果たして、仙台の若者たちは福岡のように「鮮度」が違うだろうか?と私は心許なくなりながら、以前仙台が福岡にライバル宣言のような事をしてきたな、と思出し微笑ましくも感じていたが、一方で中央にしろ地方にしろ大都市的な方面ばかりを志向する事が本当にその地域の為になるのか、という疑念を払えずに

最近、なぜ日本の現代社会において「革命」が起こらないのか、若者や所謂就職氷河期世代が大人しくしているのかといったテーマの論説(『ベシツクインカムちゃんねる』より)に触れた。日本社会は、今のままでいけば確実に衰退していくという話は昨今至る所で聞かれるし、おそらく誰もが心得ているだろう。社会保障費などの税金は膨張し続け、後の世代ほど苦しめられる事になるという事で、後世の事を考えれば、現状を変える為のアクションが当然起こるべき状況である、と言える。

何故、活動力に溢れた若者たちが、新卒当時不況だったり、世代人口が多い為に少ないパイを争ったりという貧乏くじを引かされた意識の強いと言われる就職氷河期世代が団結し立ち上がるうとしないのか。そのシンプルに解答は、ズバリ「自由化が進んだから」だ。つまり平成

ではそのリーダーとは何者だったのか、という事である。日々夢想しているお前が行動を起こせばいいではないかとも言われようが、無論できる事はやっていきたくないながらも、リーダーにはそれなりの能力、素養が必要だ。ところが、革命のリーダーになれるような能力のある人間は現代ほとんど好んでリーダーなどにはならないというのである。かつて人々は自由に家や地域、職場などを脱し流動する事を許されておらず、決まった集団内で団結しその中の適正のある者がリーダーとなつて他を率いた。

ところが、そのような能力を持った人間は、自由になる事が許された社会においては、もつとその能力を生かせる分野に個人の裁量で移っていく事が可能になる。敢えてその集団の為に身を賭して闘うなどというリスクを負う必要がなくなつたという事なのである。自由競争の勝者となる選

ば仲間と団結し、その要求を通す他なかつた。昭和期学生運動が活発だったのも労働組合が機能していたのも、個人々が流動を許されず、「逃げ場がなかった」時代だったからだという。

この、自由を得たからこそ「集団の為」よりも「自分の為」に労力を費やし、社会を改善しようという試みが為されなくなっていく

構造は政治にも当てはまつてゆく。もはや政治自体が自由競争を推奨(ふるさと納税)も税金を巡る自治体同士の競争だという)しそれによって個人の待遇が左右される現状では、投票を含めた政治参加などによりも、自身の出世や資格取得にエネルギーを注いだ方が合理的である。よって、自由な社会になった事で、政治もまた機能不全に陥っている。と云うのである。

無論、誰もが気づくであろう事に、自由がもたらす困難は革命など以前に、近年いよいよ深刻化している少子化、それにまつわる恋愛・結婚などに関する事の方が直接的に実感できるよ

うに思う。見合いの慣習が失われ、自由恋愛が是とされる時代になると、実際には(性格や能力的に)自由に恋愛ができる層はどの時代も全体の三割しか存在していなかつた事がわかつてきたと言われ、これに不況や女性の社会進出などの要素が加わり、多くが自由と言いつつも自身の事のみ考

えるのが精一杯の世の中になつてしまつたのだ。自由、というものの恐るべき側面―それがもたらした社会の大きな損失に、今あらためて暗澹たる気分

にさせられる。自由化が進む、という事は成熟した社会である事の証であるはずなのに、それが行き詰つた社会を改善する力を著しく阻害し、皮肉にも衰亡への

道標になつてしまつて言うのなら、一体どのような進退窮まつた状況で、どうすれば日本の、せめて足元である東北の未来に光明を見出せばよいのか、と。

を可能にする云わば「豊かさ」と相反するものであるならば、如何にこの両者を近づける事ができるかがカギとなつてくる、という。これは、決して伝統的な旧い社会構造を復活させようなどという事ではない。

「自由競争によって社会が豊かになる」という考え方が、生活が苦しくなり続ける今後の日本を憂えて、「だから貯金が〇千万円必要だ」「海外移住しよう」などという、競争で自身のみは切り抜けよう、という発想になつてしまふ。だからといって、集団の為に動こうとすれば、自身の社会的不利に繋がつてしまふ。

ところで、「集団の為」よりも「自分の為」に労力を注ぐ事が合理的な状況というものは、集団の規模が大きくなり、個人が自由に行動する事が可能になるにつれて起こる。逆に集団の規模が小さくなるほど、「自分の為」より「集団の為」に動きやすくなるのだという。

規模の小さな集団として究極の例である「家族」の場合、家族の為に個人が労力を注ぐ事は誰にとつても当然の事と感ぜられる。近所づきあいなどが機能している地域社会では、地域貢献が自身の信用に繋がるといふ恩恵がある為、「集団の為」に動く事が有意義と思える場面が多いはずだ。

即ち、集団の規模が小さければ「集団の為」と「自分の為」が近くなり、逆に集団の規模が大きくなり、逆

に

「個人個人が国政について考える」といきなりグローバルな視点ばかりが強制されるのが現状のようだ。しかし、ローカルの問題意識がなければ、集団の為に労力を注ぐ動機が失われて、社会や政治が機能しなくなつてしまふ。ローカルをすつ飛ばして国家全体の事を考える―というのは無理がある事がわかるのである。

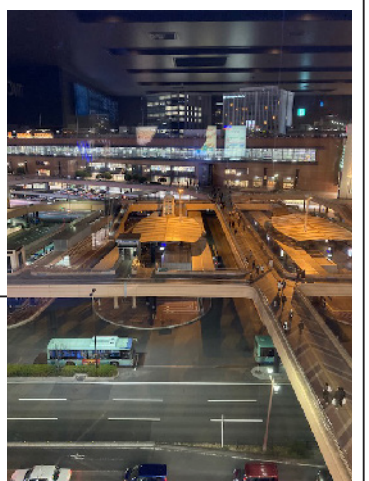
ローバルになると、両者は遠くなる。集団が大きくなり過ぎればその為に労力を注ぐ合理性が失われ、社会が機能不全になつていく。よって、社会には「ローカル」が必要なのだ―という事が言えるのだと思う。

そもそも国政というものは、代議制民主主義という形で「ローカル」の意見を代表する政治家を送り出す事で機能してきたものであり、現在もその形自体は残っているが、実態は各地域の為に動くとするより

「個人個人が国政について考える」といきなりグローバルな視点ばかりが強制されるのが現状のようだ。しかし、ローカルの問題意識がなければ、集団の為に労力を注ぐ動機が失われて、社会や政治が機能しなくなつてしまふ。ローカルをすつ飛ばして国家全体の事を考える―というのは無理がある事がわかるのである。

ここまでは考えてきて、何となく見えてきたものがある。それは、社会を機能不全から救う為には、そのメリッ

ト・デメリットを天秤にかけバランス感覚を持ちながら、ローカル―即ち東北を始めとする地域へ、そして大都市からより小さな集団へ、の帰帰が必要なのではないか、という事だ。つまり、大都市化が社会を崩壊させる遠因であり、ローカルの環境―人口の少くない、より小さな集団が割拠する地方の方に社会が活性化される可能性があるとするならば、現在まさに起こっている、武田氏も実感すると言われるところの「東京より、福岡の若者の鮮度が高い」という現象は、巨大になり過ぎ誰もその為に貢献する意義を持たなくなつた集団である東京から流れ出した人々が、ローカルへと回帰し始めたその序章に過ぎないのではないか。



「鮮度」が違う、東北はそこにあるか?(仙台駅遠望)

ここまでは考えてきて、何となく見えてきたものがある。それは、社会を機能不全から救う為には、そのメリッ

ト・デメリットを天秤にかけバランス感覚を持ちながら、ローカル―即ち東北を始めとする地域へ、そして大都市からより小さな集団へ、の帰帰が必要なのではないか、という事だ。つまり、大都市化が社会を崩壊させる遠因であり、ローカルの環境―人口の少くない、より小さな集団が割拠する地方の方に社会が活性化される可能性があるとするならば、現在まさに起こっている、武田氏も実感すると言われるところの「東京より、福岡の若者の鮮度が高い」という現象は、巨大になり過ぎ誰もその為に貢献する意義を持たなくなつた集団である東京から流れ出した人々が、ローカルへと回帰し始めたその序章に過ぎないのではないか。

仙台もまた、今以上に巨大な集団にはなりそうもないし、おそらくは、なる必要もないのだ。無理に東京圏から人々を呼び戻さずとも、求められるべき変革を地道に成し遂げたローカルたる東北にこそ誰をも惹きつける魅力の輝きを認める事ができるのではないか―そう思えてならない。

ここまでは考えてきて、何となく見えてきたものがある。それは、社会を機能不全から救う為には、そのメリッ

ト・デメリットを天秤にかけバランス感覚を持ちながら、ローカル―即ち東北を始めとする地域へ、そして大都市からより小さな集団へ、の帰帰が必要なのではないか、という事だ。つまり、大都市化が社会を崩壊させる遠因であり、ローカルの環境―人口の少くない、より小さな集団が割拠する地方の方に社会が活性化される可能性があるとするならば、現在まさに起こっている、武田氏も実感すると言われるところの「東京より、福岡の若者の鮮度が高い」という現象は、巨大になり過ぎ誰もその為に貢献する意義を持たなくなつた集団である東京から流れ出した人々が、ローカルへと回帰し始めたその序章に過ぎないのではないか。

仙台もまた、今以上に巨大な集団にはなりそうもないし、おそらくは、なる必要もないのだ。無理に東京圏から人々を呼び戻さずとも、求められるべき変革を地道に成し遂げたローカルたる東北にこそ誰をも惹きつける魅力の輝きを認める事ができるのではないか―そう思えてならない。

ここまでは考えてきて、何となく見えてきたものがある。それは、社会を機能不全から救う為には、そのメリッ

ト・デメリットを天秤にかけバランス感覚を持ちながら、ローカル―即ち東北を始めとする地域へ、そして大都市からより小さな集団へ、の帰帰が必要なのではないか、という事だ。つまり、大都市化が社会を崩壊させる遠因であり、ローカルの環境―人口の少くない、より小さな集団が割拠する地方の方に社会が活性化される可能性があるとするならば、現在まさに起こっている、武田氏も実感すると言われるところの「東京より、福岡の若者の鮮度が高い」という現象は、巨大になり過ぎ誰もその為に貢献する意義を持たなくなつた集団である東京から流れ出した人々が、ローカルへと回帰し始めたその序章に過ぎないのではないか。

ここまでは考えてきて、何となく見えてきたものがある。それは、社会を機能不全から救う為には、そのメリッ



ミツバツツジ



ヤマシャクヤクが伸びてきた



キクザキイチゲとアズマイチゲ

遠野にようやく春が来た。春の花々が、待ちきれないかのように一斉に咲き乱れる季節である。それとともに、外の景色も一挙に変わる。晩秋のくすんだ色や雪の白色から一転して、鮮やかな色彩の乱舞となる。

秋から冬にかけて、長い忍耐の時にため込んだエネルギーを思い切り発散しようとしているのだろうか？

北国の春は、北国で暮らす人、かつて暮らした人には格別な季節である。浮き立つような喜びが湧き出てくる季節であり、四季のうちで最も劇的な変化の季節である。

古希の筆者は春のエネルギーに圧倒されている。

シリーズ 遠野の自然
「遠野の清明」
 遠野 1000 景より



河川の野焼き



バッケ (フキノトウ)



イワウチワ



ショウジョウバカマ



ユキワリソウ



写真でお伝えする
東北の風景
「時間差で楽しめる東北桜」
写真撮影 尾崎匠

